



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

2016. 3. 17(金) 於 京都大学
第22回大学教育研究フォーラム

ライティングセンターの利用のきっかけと 継続的な利用の関連についての量的分析

西浦真喜子・小林至道・毛利美穂
(関西大学教育推進部ライティングラボ)

本日の発表

1. 問題と目的
2. データについて
3. 分析結果
4. 考察

参考文献

文章作成支援の背景

- 大学全入時代に伴う大学生の多様化
→大学生に必要な文章作成能力の低下 (高松, 2006)
- 大学生に対して文章作成の支援のニーズが向上
→初年次教育科目における文章作成指導 (山田・杉谷, 2008)
→**ライティングセンター**の設置、大学図書館内やラーニング・コモンズ等での文章作成支援の実施 (文部科学省, 2011)
- ライティングセンターでの支援 (佐渡島・太田, 2013)
→文章の添削ではなく、「書くプロセス」を支援

関西大学ライティングラボ



- 「卒論ラボ」として2011年4月に開設
- 2012年に文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」（連携校：津田塾大学）が採択され、「ライティングラボ」という名称に変更し、全学部の学生を対象に文章作成支援を行う
- レポート・論文の構成、文献の探し方、引用の仕方、文章表現など、アカデミック・ライティングの基本技術を学生一人ひとりの状況に合わせてTA（後期課程の大学院生）が支援

ライティングラボの目的・課題

目的

- 「自立した書き手」を育てる
(佐渡島, 2009; 飯野・稲葉・大原, 2015)
→文章作成を含む学修において、
学生自身が抱える課題に対して、
自分がどのように対処していけば
よいかを考え、行動できるように
学生を支援する
- 授業内外の主体的な学修を
促進

課題

- ライティングラボの
継続的な利用
- 正課カリキュラム・
教員との連携
(教員からの利用指示など)

ライティングラボを利用する学生

自発的に利用する

- ・文章作成に不安な点があり、相談したいことがある
- ・誰かに文章を見てほしい



継続的な利用に
つながる
ポジティブな利用

教員の指示で利用する

- ・なぜ利用しないといけないかわからない
- ・何を相談すればよいかわからない



1回限りの
ネガティブな利用

(野村・中嶋・鹿島, 2015; 佐渡島・太田, 2013)

本研究の目的

ライティングラボを利用する学生の特徴を
量的分析により明らかにする

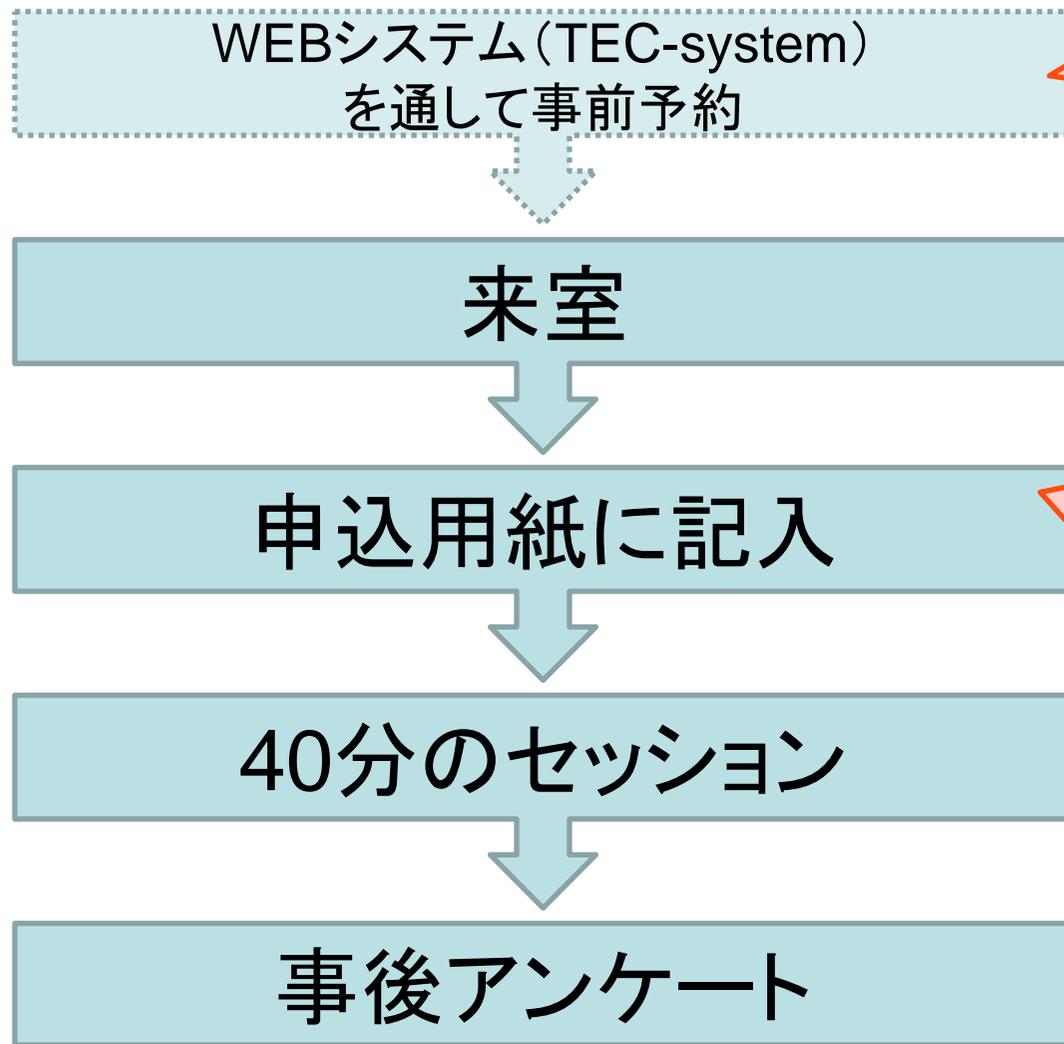
- ① **教員の指示**で利用する学生と**自発的**に利用する学生を比較する
- ② ライティングラボ利用時における「課題の進行状況」、および「その後の継続的な利用」において、両者がどのように異なるのか（異なるのか）を検討する

本日の発表

1. 問題と目的
2. データについて
3. 分析結果
4. 考察

参考文献

ラボでの相談の流れと分析データの収集方法



相談日時・場所以外に

- ・課題の進行状況(5段階)
- ・課題の提出日
- ・相談したいこと などを入力

利用のきっかけ

- ・教員の指示
- ・先生からの指示で
- ・友人/先輩/後輩に聞いて
- ・チラシや掲示を見て
- ・以前利用したので
- ・Webサイトを見て
- ・その他 から複数選択

分析データ

2015年度春学期データ（利用者延べ人数815名）

- 春学期開室期間：
4月20日（月）～7月31日（金）の71日間
- 分析対象：ラボに相談に来た学生のうち、システムと申込用紙の内容が
照合できた学部生728名（延べ人数）
- TEC-systemに蓄積されたデータと申込用紙の内容から
「これまでの利用回数」「その後の継続利用回数」
「利用のきっかけ」「課題の進行状況」を抽出し、分析に用いた

本日の発表

1. 問題と目的
2. データについて
3. 分析結果
4. 考察

参考文献

結果1：基礎データから見える利用学生の特徴

春学期に利用した学部生の利用回数と利用のきっかけ

Table 1 ラボ利用回数別の度数と割合

	度数(人)	割合(%)
初めて	380	52.20
2回目	166	22.80
3回目以上	178	24.45
不明	4	0.55
合計	728	100.00

Table 2 利用のきっかけ別(複数回答可)の度数と割合

	度数(人)	割合(%)
先生の指示で	458	62.90
友人・先輩・後輩に聞いて	65	8.90
チラシや掲示を見て	85	11.70
以前利用したので	163	22.40
Webサイトを見て	51	7.00

結果2：初めてラボを利用した学生の内訳

春学期に初めてラボを利用した学部生380名の学年と学部

Table 3 春学期に初めてラボを利用した学生 (N=380) における学年と学部のクロス表

	法	文	経済	商	社会	政策 創造	外国語	人間 健康	総合 情報	社会 安全	シス テム 理工	環境 都市 工	化学 生命 工	合計
1年生	31	152	7	19	23	45	12	1	0	0	1	0	2	293
2年生	1	14	3	16	7	1	1	0	0	0	1	0	0	44
3年生	0	4	1	15	4	4	2	0	0	0	0	0	0	30
4年生	1	2	3	0	5	0	0	0	0	0	2	0	0	13
合計	33	172	14	50	39	50	15	1	0	0	4	0	2	380

結果3：教員の指示か否かによる比較

初めて利用した380名のうち・・・

- ・教員の利用指示があった学生 282名
- ・教員の利用指示がなかった学生 98名

t検定において、
有意差はみられなかった
($t(378)=-0.64, n.s.$)

→その後の
継続利用回数は同じ

Table 4 教員指示の有無による平均値(標準偏差)

	教員指示	
	あり	なし
継続利用回数(回)	0.68(1.13)	\doteq 0.77(1.32)
進行状況	3.33(1.36)	$>$ 2.30(1.41)

t検定において有意差がみられた($t(337)=5.90, p<.01$)
→教員の利用指示があると課題が進んだ状況で来室する

結果4：課題の進行状況と継続的利用

ラボの1度目の利用の後・・・

- ・継続的に利用した者は139名
- ・しなかった者は241名

Table 5 継続利用の有無と課題の進行状況 (回答任意)のクロス表(人)

進行状況	継続利用		合計
	あり	なし	
1:まだ書いていない	32	56	88
2:ちょっと書いた	10	20	30
3:半分くらい書いた	14	16	30
4:ひと通り書いた	64 (+)	84 (-)	148
5:ほぼ完成した	7 (-)	36 (+)	43
合計	127	212	339

χ二乗検定において
有意差がみられた
($\chi^2=11.70, df=4, p<.05$)

→進行状況4で入室した学生は継続的利用者の割合が増える

注 (+) / (-) はそのセルが期待値より有意に大きい / 小さいことを示す

本日の発表

1. 問題と目的
2. データについて
3. 分析結果
4. 考察

参考文献

考察1

① **教員の指示**で利用する学生と**自発的**に利用する学生を比較する

→ **教員指示**により利用した学生も、**自発的**に利用した学生も、1回目の相談後、**同じ**程度にラボを継続的に利用

利用のきっかけが自発的でなくても、
ラボで受けた支援により
継続的にラボを利用する可能性を示唆

考察2

- ②ライティングラボ利用時における「課題の進行状況」、および「その後の継続的な利用」において、両者がどのように異なるのか（異なるのか）を検討する
- 教員指示による利用者は、一通り文章を作成した段階での相談が多く、その後のラボの継続的な利用につながっていた
 - 自発的な利用者は、比較的文章作成が進んでいない段階での相談が多いが、その後の継続的な利用にはつながっていなかった

今後の課題

- 研究面での課題 = 継続的な利用の内容の検討
 - 同じ学期の1つの課題についての利用
 - 同じ学期で前回とは異なる課題についての利用
 - 学期や学年をまたいでの利用
- ⇒ 利用の内容を分類したうえで、継続的に利用する学生の傾向を経年的に比較する分析が必要（6月発表予定）
- ライティングラボ運営上の課題
 - ラボでの支援をいかに継続的な利用につなげるか
 - ライティングセンターループブックの活用
- ⇒ 課題の進行状況が2や3の段階で相談に来る学生をいかに継続的な利用につなげるか

参考文献

- 飯野朋美・稲葉利江子・大原悦子（2015）「個別相談とライティング支援の可能性ー津田塾大学ライティングセンターの活動分析からー」『津田塾大学紀要』, 47, pp. 133-148.
- 文部科学省（2011）「大学図書館における先進的な取り組みの実践例ー大学の学習・教育・研究活動の質的充実と向上のためにー」文部科学省
- 野村優・中嶋梓・鹿島萌子（2015）「ライティング・サポート・デスクの理念と実践ー立命館大学の事例報告ー」『第21回大学教育研究フォーラム発表論文集』, pp. 50-51.
- 佐渡島紗織（2009）「自立した書き手を育てるー対話による書き直しー」『国語科教育』, 66, pp.11-18.
- 佐渡島紗織・太田裕子(編)（2013）「文章チューティングの理念と実践 早稲田大学センターでの取り組み」ひつじ書房, pp. 2-10.
- 高松正毅（2006）「日本人大学生への日本語教育ー日本語変革への構想ー」『高崎経済大学論集』, 48, pp.213-222.
- 山田礼子・杉谷祐美子（2008）「初年次教育の「今」を考えるー2001年調査と2007年調査の比較を手がかりにー」『大学教育学会誌』, 30, pp. 83-87.

ご清聴ありがとうございました

発表にかんするご指摘・ご質問等よろしくお願いたします

西浦真喜子 : nisiura@kansai-u.ac.jp

